

代 表 者

行 政 視 察 報 告 書

令和2年 1月30日

会 派 代 表 者 様

呉市議会議員

中原 明夫

山本 良二

光宗 等

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和2年1月20日（月），21日（火），22日（水）

2. 調査項目

鹿児島県 鹿児島市

「市街地再開発事業について」

熊本県 八代市

「公共交通事業の取り組みについて」

熊本県 熊本市

「サクラマチクマモトバスターミナルについて」

3. 参加議員

中原明夫，山本良二，光宗 等

鹿児島県鹿児島市

■調査項目

「市街地再開発事業について」

・調査対応者

鹿児島市建設局都市計画部

上村 修 市街地整備係長

・調査期日

令和2年1月20日（月） 14時00～15時30分

・鹿児島市の概要

人口：595,049人

世帯数：276,524世帯

・調査目的

現在呉市においては呉駅周辺地域総合開発基本計画が進んでいる。鹿児島市では区域ごとに再開発事業が進み、その中でも令和3年1月に鹿児島中央駅前ビルの完成が予定されている。これらの調査を行い本市における呉駅周辺地域総合開発、賑わいづくり等に係る取り組みの参考にすべく視察を行った。

・調査内容

【鹿児島市からの説明】

鹿児島市は平成16年に、隣接する桜島町など5町と合併し、人口60万人都市として新たな一歩を踏み出した。平成23年3月には九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、都市機能が一層高まった。また、同年には少子高齢化、人口減少、グローバル化等社会の潮流に的確に対応し、将来に向けて持続可能な発展を遂げていくため第5次総合計画を策定した。平成30年には明治維新150周年を記念し、鹿児島市が舞台となった大河ドラマ「西郷どん」が放送され、これに合わせてイベントや世界文化遺産の情報発信等を行い、入込観光客数（外国人観光客含む）は過去最高を記録した。新時代を切り拓くまちづくりを積極的に行い、鹿児島駅周辺都市拠点総合事業、中央町19・20番街区市街地再開発事業、千日町1・4番街区市街地開発事業、シティプロモーション戦略ビジョンやネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略の策定等をソフト・ハードの両面から具体的施策として推進している。

【質疑応答】

質：市街地再開発事業全般が順調に進んでおられる。呉服町6番地区にある三越が平成21年5月に閉店し、翌年には複合商業施設として再生オープンし

ており、これらの再開発事業が順調に進む理由として大きな要因があればお聞きしたい。

答：土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、第1種市街地再開発事業権利変換方式（工事着工前に事業区域内すべての土地、建物について、現在資産を再開発ビルの床に一度に変換する方式）を取ったが、大きな問題もなく変換を完了することができた。また、地元の企業が再開発事業に積極的なことも大きい。

質：入込観光客数が大幅に伸びておられ、外国人宿泊数も3年前と比べ倍増しているが、ホテル不足等の受け入れの課題は出ていないか。また、観光客数が伸びている要因をお聞きしたい。

答：ホテル不足等の問題は今のところ存在していない。観光客が伸びた要因としては九州新幹線鹿児島ルート開業によるアクセス向上、大型クルーズ船の寄港増加、大河ドラマ「西郷どん」の放映で知名度が上がったこと等が大きいと考えている。

【呉市での展開の可能性】

人口規模が呉市の約3倍ということと、九州新幹線鹿児島ルートが開業されており呉市と比べて有利性が高く単純比較はできないが、鹿児島市においては市街地再開発事業が順調に進んでおり、事業の流れや手法については参考になるものとする。また、鹿児島中央駅と連絡通路で結ばれる再開発ビルの完成が令和3年1月に予定されている。この再開発ビルは住宅200戸・ホール・商業施設を含む複合型ビルとなっており、呉市が進める呉駅周辺地域総合開発及び旧そごうの有効活用、賑わいづくりを進めるうえで参考となる一つの例であるとする。また、鹿児島市と比べアクセス・人口規模・観光資源の面で劣る呉市において、開発事業、賑わいづくりを成功させるためには、呉市が持つ個性をより際立たせる取り組みが重要である。広島市においては広島県内の複数の企業が、広島市中心部のまちづくりを目的とする組織の設立を検討している。呉市においても開発を成功させるためには、ノウハウを持った企業が参画する官民連携型の組織が必要ではないかと感じる。

熊本県八代市

■調査項目

「公共交通事業の取り組みについて」

・調査対応者

八代市総務企画部企画政策課

内田 圭亮 主事

- ・調査期日

令和2年1月21日（火）13時30～15時00分

- ・八代市の概要

人口：127,472人

世帯数：56,216世帯

- ・調査目的

八代市においては乗り合いタクシーの運行や、路線バス・乗り合いタクシーに上限運賃導入を行う等、利用促進対策に積極的な取り組みを実施している。呉市においては令和元年10月から生活バスの運行エリアが拡大され、公共交通については高齢化とともに全国的にも必要性が高まっていると言える状況である。一方で、その施策や運営の面では多くの課題を抱えており、呉市においても新しいモビリティシステムへの対応や、使い易い交通網を進化させる必要がある。こうした状況の中、誰もが使いやすい公共交通を構築していくため八代市への視察を行った。

- ・調査内容

【八代市からの説明】

平成17年、八代市と八代群内の1市2町3村が合併し、新「八代市」となった。八代市は南約40^{km}に位置し、市域は東西約50^{km}、南北約30^{km}と東西に長い形状となっている。全面積の約70%が山間地、約30%が平野部で人口は平野部に広く分布し、山間部にも人口が薄く分布している。八代市地域公共交通再編実施計画は、平成26年に策定された八代市地域公共交通網形成計画の目標や方針に基づいて、地域公共交通に係る課題の包括的な解消に向けた、公共交通網の画的な再編を実現化していくための取り組みを進めている。また、平成29年に再編等を実施し、加えて路線バス上限200円運賃、循環バス・乗り合いタクシー150円均一運賃という分かりやすい運賃設定により利用者増を見込んだ取り組みを行い、利用者や市民から好評を得ている。その他にも4路線について路線バスから乗り合いタクシーに変更し、運行の効率化を図るとともに運行経路を見直すことにより、交通不便地域解消の取り組みを行っている。

【質疑応答】

質：バスの上限運賃、乗り合いタクシー等の均一運賃導入等、大胆な施策を実施していると思うが、実際の利用者・各方面からの声や反響はどのようなものがあるか。

答：利用者からは好評を得ている。課題としては運行補助金が上昇傾向になっている。定期運航している乗り合いタクシーの利用者が2人未満の路線も存在している。

質：乗り合いタクシーについては、17路線（定期運航3路線・予約運行13路線）を数社で運行されているが、路線の割り当てや事業者選定にあたっての課題はあるか。

答：入札による業務委託から、運行実績に応じた補助金交付としている。そのとりまとめをタクシー協会が行っており、運輸業界も労働力不足が問題となっている状況の中で、会社間で人員の状況に応じて受け持ち路線を代わる等、協力体制が構築されている状況である。

【呉市での展開の可能性】

呉市におけるバス利用者数も減少傾向にあり、将来的には路線や地域によって乗合タクシーに切り替えることも想定される状況であるが、交通不便地域の拡大を防ぐ仕組みを考え、地域差をなくす取り組みを行わなければならない。八代市においては実際に乗合タクシーを運行するなど積極的な取り組みを行っており、八代市での課題や市民の反応が本市における今後の取り組みの参考になると考える。

熊本県熊本市

■調査項目

「サクラマチクマモトバスターミナルについて」

・調査対応者

九州産交ランドマーク株式会社プロパティマネジメントグループ
山本 高史 次長

・調査期日

令和2年1月22日（水）10時00～11時00分

・熊本市の概要

人口：739,674人
世帯数：327,840世帯

・調査目的

現在、国土交通省では交通結節拠点化「バスタプロジェクト」を全国展開している。本市においても次世代の交通をにらんだ呉駅周辺の整備をしていく方針が出されており、熊本市でリニューアルされたバスセンターを通して、交通拠点としての課題と現状、今後の展開について見識を高めるべく熊本市への視察を行った。

・調査内容

【九州産交ランドマーク様からの説明】

令和元年9月、「SAKURA MACHI Kumamoto」内に「熊本交通バスセンター」がリニューアルし、日本最大級となる巨大バスターミナル「熊本桜町バスターミナル」として生まれ変わった。「SAKURA MACHI Kumamoto」にはバスセンターの他、宿泊主体のプレミアムホテル、時間消費を楽しめる150店の商業店舗や映画館、交流の核となる熊本城ホール、さらには都市型住宅が内包されており、老若男女問わず訪れることができる大型商業施設となっている。

バスセンターについては車道と乗り場を仕切った「ホームドア方式」とし、屋内空間の乗り場は空調が効いているため、待ち時間を快適に過ごせる様式にしている。

【質疑応答】

問：バスターミナルの発着は1日何台くらいになるか。また、乗降バース数はいくつあるか。

答：入出庫数は5,800台で、発着回数は4,800回となっている。また乗降バース数は29、待機所バース数は27で、発着台数の理論値に基づいて計算されたバース数となっている。さらに、ホームを赤・青・緑の三色に色分けし視覚的に差別化することにより、不慣れなお客様にも利用路線をわかりやすくしている。

【呉市での展開の可能性】

発着ホームの色分け、ホームへの道案内を床へ表記する等、不慣れな利用者にも分かりやすい施設であり、バスセンターのホームの形状や施設、運営方法など、当市においても参考にできるものである。また、「SAKURA MACHI Kumamoto」についてはバスセンター、商業施設、公共施設、分譲マンション、ホテルを含む複合型施設であり、幅広い世代に利用してもらえる工夫がなされていた。外観もテラス・庭園が整備される等、お洒落で個性的なものとなっており、今後の呉駅周辺地域総合開発の大きなヒントになるものと考えられる。